

注意報第5号

各関係機関団体の長  
各病害虫防除員  
農業資材販売等関係者 } 殿

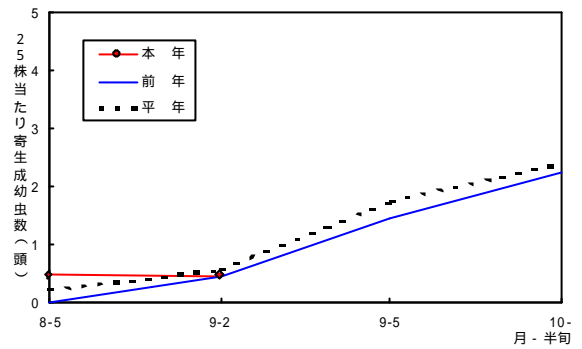
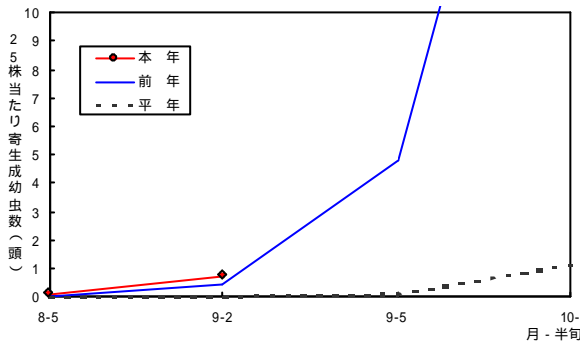
福岡県病害虫防除所長

平成20年度病害虫発生予察注意報第5号について

このことについて、病害虫発生予察注意報第5号を発表したので送付します。

大豆

- 1 病害虫名：ミナミアオカメムシ
- 2 発生地域：県下全域
- 3 発生程度：多
- 4 注意報の根拠
  - (1) 9月2半旬における大豆25株当たりのたたき落とし調査の結果、ミナミアオカメムシの成幼虫数は0.7頭（前5か年平均0.02頭、前年0.4頭）で、多発生した前年より多く、発生ほ場率は18.2%（前5か年平均5.7%、前年22.2%）で前年並である。
  - (2) 県下5か所の予察灯における8月のミナミアオカメムシの合計誘殺数は125頭（過去5か年平均20頭、前年69頭）で、過去5か年平均及び前年より多い。
  - (3) 9月2半旬における普通期水稻での20回すくい取り調査の結果、ミナミアオカメムシの成幼虫数は0.7頭（過去5か年平均0.1頭、前年0.6頭）で、過去5か年平均より多く前年並である。
  - (4) 福岡管区气象台9月5日付け発表の1か月予報では、気温は高いとされている。
  - (5) 吸実性カメムシ3種（アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ）は0.4頭（平年0.6頭、前年0.4頭）、発生ほ場率は37.5%（平年21.8%、前年27.8%）と平年並である。
- 5 防除上の注意
  - (1) 防除適期は開花期後30日前後である。多発生の場合は、その7～10日後にも防除を行う。
  - (2) 水稻収穫後、隣接した大豆ほ場への飛来が懸念されるので、ほ場をこまめに見回り、発生状況の把握に努める。
  - (3) カメムシ類は広範囲に移動するので、広域一斉防除の効果が高い。
  - (4) 本種に対しては、シラフルオフェン剤の防除効果が低いので、効果の高いクロチアニジン剤またはジノテフラン剤を使用する。
  - (5) 農薬散布に当たっては、使用基準（収穫前使用日数、使用回数等）を遵守し、飛散防止に努める。



ミナミアオカメムシ

吸実性カメムシ 3種

図1 大豆ほ場における吸実性カメムシの発生推移

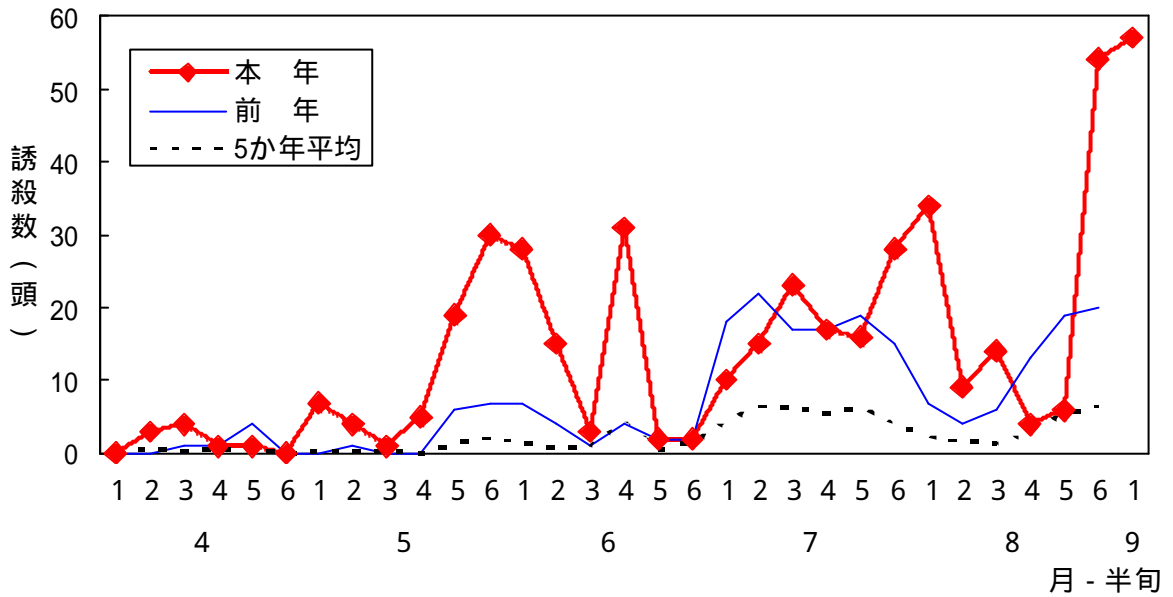


図2 予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺数 (県下5か所合計)